



株主のみなさまへ

第50期 営業のご報告

2010年4月1日～2011年3月31日

- 2 会社紹介
- 3 社長メッセージ
- 7 営業活動のご報告
- 8 特集：世界の成長市場
- 10 海外拠点からの手紙
- 12 トピックス
- 14 社会貢献への取り組み
- 15 株主の皆様からの声
- 16 連結財務諸表
- 18 会社概要
- 19 株式概要

このたびの東日本大震災により被災された皆様には、
心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます



Ever Onward

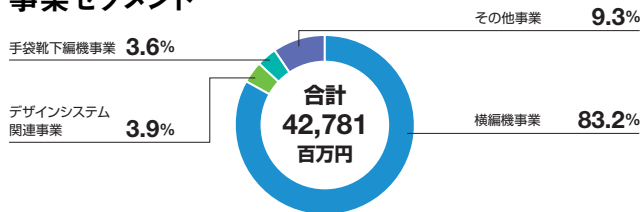
—— 限りなき前進

「世界初」へのチャレンジの歴史が、
「Ever Onward」の経営理念に結実しています。

当社の歩みは、現社長・島正博が「手袋編機の全自動化」という難課題に立ち向かうため、1962年に当社を創業したことに始まります。そのひたむきな情熱と豊かな発想は、さまざまな試行錯誤を経て1964年末に世界初の全自動手袋編機へと実を結びました。技術にこだわり「最高機能の製品を経済的な価格で提供する」という当社の企業スピリットは、この創業当時から一貫し、今に引き継がれています。

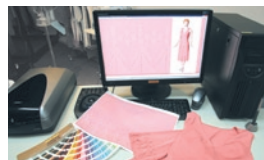
1970年代後半、第二次オイルショック後の不況期を脱すべく、機械技術と電子技術の融合を目指してきた当社は、高機能・低価格の「コンピュータ横編機」を開発。80年代には、デザインシステムをはじめ、ソフト面の開発を強化することで先発の海外メーカーを凌駕し、創業20余年にして世界の

事業セグメント



横編機事業

世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売するコア・ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント横編機、多彩な柄を表現できるSIG[®]シリーズ、コストパフォーマンスの高さでユーザーから圧倒的な支持を得るNSSG[®]、SSR[®]など、独自の開発力を活かした豊富なラインアップを提供。



デザインシステム 関連事業

ニット・アパレル業界のモノづくりを支援するデザインシステムや、自動裁断機などの周辺機器の製造・販売を行う。デザインシステムのバーチャルサンプルや3Dシミュレーションなどを駆使したワークフローを提供することで、ユーザーの負担とコストを大幅に削減。異業種への展開も進めている。



手袋靴下編機事業

当社技術開発史の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化などの高度技術を応用し、医療用など高付加価値分野への対応を強化している。



その他事業

当社編機・デザインシステム用のメンテナンス部品の販売と修理・保守、高級カシミア系の紡績、ニット製品の製造・販売など。

トップランナーへと躍り出ました。国内ニット産業の空洞化が進んだ90年代には、完全無縫製型の「ホールガーメント[®]横編機」を開発。「産業革命に匹敵する」と評されるほどのインパクトを世界のニット業界にもたらしました。

2000年以降も、多様化する市場のニーズに応え、品質と生産性を大幅に向上させた新機種を次々と発売。「シマセイキ」ブランドは、先進国から新興国まで世界中のユーザーに広く受け入れられるようになりました。

当社は今後も、これまで培ってきた高度な技術力を用いた製品の開発に尽力するとともに、企画・デザインから生産、販売促進に至るまでをサポートする「トータルファッションシステム」の提案を通じて衣の文化を創造し、ユーザー業界の発展に貢献していきます。

中国でのシェア拡大のための新機種を投入。 また、新興国市場での販売にも注力しました。

Q 当期の市場の概況と業績について説明してください。

A 世界的に個人消費が戻り、
売上、利益ともに回復基調へと転じました。

当期の世界経済は、中国を中心とする新興国の高成長に牽引される形で、欧米の先進国でも輸出の増加により企業業績が改善されるなど、全般的に復調の兆しが見られました。景気回復に伴い、衣料品消費も順調に拡大しており、主要ニット生産地域では生産量が伸びています。

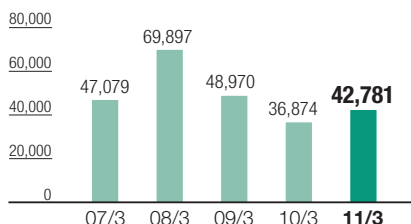
こうした状況を受けて、新興国をはじめ世界各地でコンピュータ横編機への設備投資が進み、当社製品に対する需要は活発な動きとなりました。しかしながら、円高の進行に加えて、競合メーカーとの価格競争激化が製品販売単価に影響するなど、厳しい状況は依然として続いています。また、2011年2月に発売した新機種SSR[®]は、中国を中心に好調なスタートを切りましたが、業績への本格的な貢献は次期以降と見込んでいます。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は427億81百万円（前期比16.0%増）となりました。

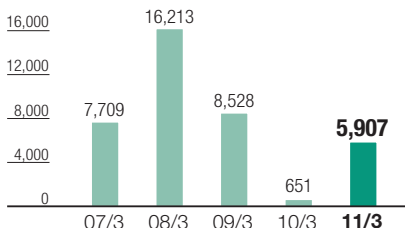


代表取締役社長 島 正博

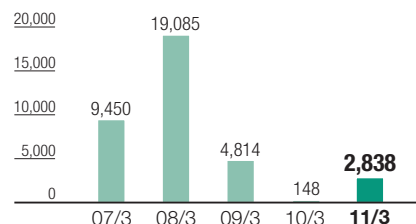
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



将来の見通しについて

本報告書に記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

社長メッセージ

利益面では、前期に比べて大幅な増益となりました。営業利益は、売上高の増加に加えて、コストダウンの徹底や生産台数増加に伴う量産効果により売上総利益率が向上したことや、経費削減への取り組みにより販管費率が低下したことを受けて、59億7百万円(前期比52億56百万円増、807.2%増)と著しく増加しました。

一方でマイナス要因もいくつかあり、中でも円高による為替変動の影響は非常に大きく、連結の営業外費用で為替差損が35億52百万円発生しました。その結果、経常利益は28億38百万円(前期比26億89百万円増)となりました。また特別損失として株式の評価損を計上したため、当期純利益は7億69百万円(前期比26億55百万円増)となりました。なお、東日本大震災により、一部の市販部品の調達に支障が出ましたが、仕入先の変更や自社内での加工で対応したことで生産への影響は軽微となり、当期の業績に直接的な影響はありませんでした。



Q 世界のニット産業の動向を説明してください。

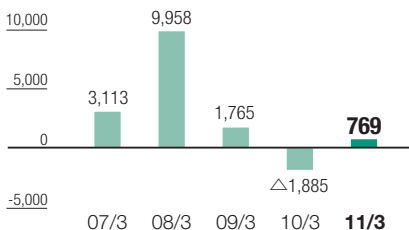
A 最終製品の需要増加に対応するため、各地で設備投資が進んでいます。

欧米での消費回復に加え、新興国の経済発展も相まって、世界的に衣料品に対する需要が増えています。世界のニット工場として発展してきた中国も、一般消費者の購買意欲が旺盛で、今や一大消費地にもなりました。

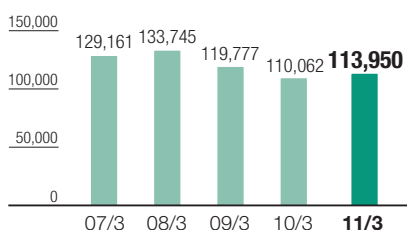
ニット製品の需要が拡大する中で、中国では、人件費高騰や若年労働力の不足などを背景に、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換が加速しています。一方で、香港資本の大手ニットメーカーの間では、生産地を分散化させる動きが出ており、カンボジアなどアジア新興国への生産シフトが進んでいます。また、欧州向けのニット産地・トルコでも中国からの生産回帰が見られました。

生産地が中国一極から各地へと分散する傾向は、世界中に販売網を持つ当社にとって追い風であると考えています。新興国では、国内消費マーケットの拡大に伴い、ニット産業への設備投資が進んでおり、販売伸長のチャンスです。当社は、これらの新たな需要を確実に取り込むべく、新興国でのサポート体制の強化などさまざまな施策に取り組んでいます(世界の成長市場の詳細については、P8～9の特集をご参照ください)。

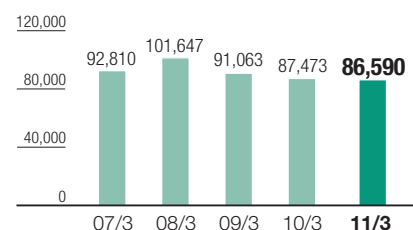
当期純利益・損失(△) (百万円)



総資産 (百万円)



純資産 (百万円)



Q 当期の取り組みについて説明してください。

A **戦略機と高付加価値機をそろえ、世界各地のニーズに的確に対応しました。**

当社は、トップメーカーならではの総合力を活かして、世界各地の多様な市場ニーズに適応した販売展開に取り組みました。中国を筆頭とする大量生産型の地域には高いコストパフォーマンスを誇るコンピュータ横編機の戦略機「SSR」を投入し、欧州などの消費地型生産や多品種少量生産を主とする地域では、高付加価値機であるホールガーメント®横編機を中心に販売に注力しました。

SSRは、中国市場で急増するコンピュータ横編機への転換需要を捉え、シェアアップを図るために投入した新鋭機です。コストダウンと生産性向上を両立した同機は、ユーザーからも高く評価されています。今後は、デザインシステムとの連携による一層の生産効率向上をアピールし、中国以外の新興国でも拡販を図ります。

ホールガーメント横編機については、以前より取り組んできた提案型営業の成果が出ており、超ファインゲージで高品質なニット製品の生産を実現する「MACH2®X」が、ファッション先進国・イタリアで受け入れられるなど、売上が増大しました。

一方、中東のトルコでは、コンピュータ横編機の置き換えニーズにきめ細かく対応し、売上拡大に努めました。



新機種SSRの組立ライン(本社工場)



上海での技術講習



オーダーニットフェア(高島屋東京店)

Q 配当について説明してください。

A **年間配当金は35円とし、前期より5円の増配といたしました。**

期末配当金は、当初の予定通り1株につき17円50銭とし、実施済みの中間配当金とあわせて1株につき35円の年間配当金とさせていただき、前期より5円の増配といたしました。

次期の配当につきましては、中間配当金を17円50銭とする予定です。期末配当金については、当社は2012年2月に創立から50年の節目を迎えますので、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表し、創立50周年記念配当として1株につき5円増配して22円50銭とし、年間配当金を40円とさせていただく予定です。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けています。今後も安定配当の継続と株主価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

Q 次期の施策と業績見通しを説明してください。

A **競合他社との差別化を明確にし、成長軌道を切り拓いていきます。**

今後の世界経済については、中東・北アフリカの政情不安に

社長メッセージ

よる原油価格上昇の影響が懸念されるものの、新興国では依然として高い経済成長が持続する見込みで、全体としては緩やかな回復傾向が続くと思われます。一方、国内の経済については、東日本大震災の影響が今後さまざまな方面に広がると見られ、景気悪化が懸念されます。

こうした中、次期は世界に向けた二つの展示会で当社の総合力をアピールします。6月開催の上海テックスでは、中国横編機メーカーとの開発力の差を鮮明にするべく、次世代のデザインシステム「SDS®-ONE APEX3」を出展し、従来以上に洗練されたトータルソリューションを提案します。また、9月にスペイン・バルセロナで開催されるITMA展でも、付加価値の高い新製品を発表する予定です。業績見通しの達成に向けて、こうした新製品の投入を継続して行うとともに、そのための設備投資も積極的に進めていく考えです。

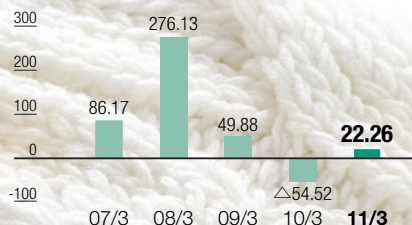
営業面では、世界各地の市場で、それぞれのニーズに応じた販売施策を強化していきます。主力市場である中国、香港においては、SSRの拡販に注力してシェア拡大を目指す一方で、イタリアを中心とする欧州では、ホールゲーム横編機のさらなる販売強化に努めます。また国内市場では、個展開催など産地に密着した営業活動を展開します。デザインシステム関連事業においては、「SDS-ONE APEX3」の魅力を全面的に訴求し、異業種を含む新規・更新需要の開拓を精力的に進めていきます。

これらの施策を着実に実行することで、2012年3月期の連結業績は、売上高550億円(前期比28.6%増)、営業利益80億円(同35.4%増)、経常利益80億円(同181.8%増)、当期純利益50億円(同549.5%増)を計画しています。なお、業績見通しの前提となる為替レートは、米ドルは83円、ユーロは115円を想定しています。また、東日本大震災による影響は現時点では限定的であると見られるため、業績予想には織り込んでおりません。

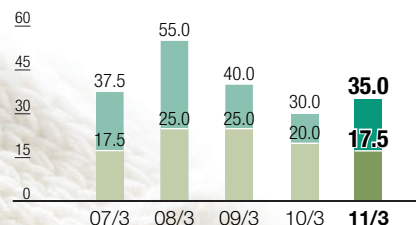
当社は引き続き、業界のリーディングカンパニーとして、高度な技術力に裏付けられた付加価値の高い製品を供給し、業界全体の活性化に寄与するとともに、徹底したコストダウンや経費削減に取り組み、さらなる成長を目指していきます。株主の皆様には、中長期的な視点から当社グループの成果に注目いただき、一層のご支援をお願い申し上げます。



1株当たり当期純利益・損失(△) (円)



1株当たり配当金 (円)

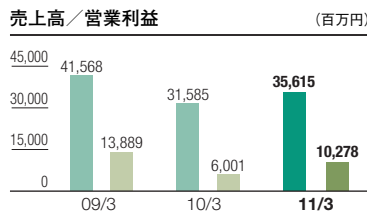


■ 第2四半期 ■ 通期

営業活動のご報告(連結)

売上高 営業利益

横編機事業



当社グループのコア・ビジネスである横編機事業では、世界経済の復調により各国で衣料品の需要が回復し、世界の主要ニット生産地域において生産量が増加したことで、生産性の高いコンピュータ横編機への設備投資が進みました。

主力の中国市場では、人件費高騰や若年労働力の不足などを背景に、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換需要が急速に高まっています。こうした流れの中で、2011年2月に発売した新機種「SSR[®]」は、優れた生産効率やコストパフォーマンスの高さが支持を得て受注が急伸し、売上増に寄与しました。

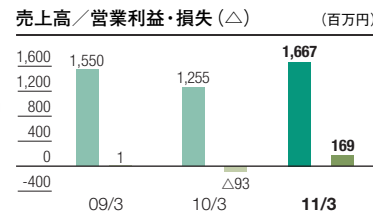
近年、設備投資が停滞していた中東のトルコにおいても、欧州、ロシア向けニット製品の輸出拠点として品質やコスト面での優位性が高まり、生産量が増大。これに伴い、コンピュータ横編機の設備需要が活発となり、前期に比べ売上が大幅に増加しました。

欧州のイタリアでは、かねてより取り組んできた提案型営業の成果が着実に出ており、ファッション性の高い上質なホールガーメント[®]の高速編成を可能にした最上位機種「MACH2[®]X」を中心に、好調な推移となりました。

またアジアの新興国では、経済成長に伴う消費需要の高まりなどから生産量が増え、コンピュータ横編機への設備投資が拡大しました。南米のブラジルにおいては縫製産業の規模が小さいことから、裁断・縫製作業が不要なホールガーメント横編機の導入が進んでいます。一方、国内市場では厳しい事業環境が続いていますが、一部に中国からの生産シフトが見られたことで売上を伸ばしました。

これらの結果、横編機事業の売上高は356億15百万円(前期比12.8%増)となりました。

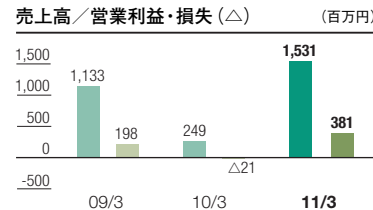
デザインシステム関連事業



デザインシステム関連事業では、高品質でファッション性の高いモノづくりをトータルにサポートするアパレルデザインシステム「SDS[®]-ONE」を中心に、販売が堅調に推移しました。コンピュータ横編機に連動して海外の売上が拡大したほか、国内では営業体制の改革を行い、デザインシステムの販売を強化したことで設備更新が進みました。これらの結果、デザインシステム関連事業の売上高は16億67百万円(前期比32.9%増)となりました。

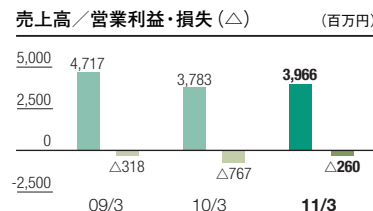
手袋靴下編機事業

手袋靴下編機事業では、当社のファインゲージ編機の耐久性や安定性が高く評価され、大手メーカーによるアジア新興国向けの設備投資が拡大したことで、売上高は15億31百万円(前期比513.1%増)と大幅に回復しました。



22 その他事業

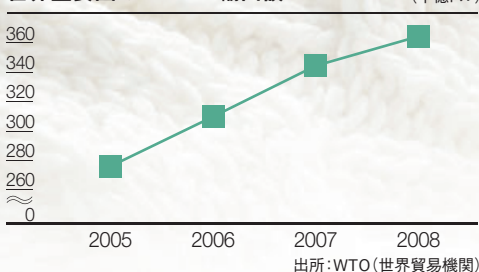
その他事業では、横編機の売上増に伴って部品販売事業が好調でした。また、カシミア糸などの繊維原料製造事業も順調に推移し、売上高は39億66百万円(前期比4.8%増)となりました。



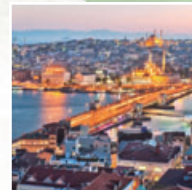
成長する新興国市場で販売を強化

中国やインド、ブラジルなどの新興国では、著しい経済成長や人口増加に伴って、衣料品の生産・消費が拡大しています。当社はこうした新興国市場の特徴に応じた販売戦略を展開しています。

世界主要国のアパレル輸出額



Middle East



中国

自動化が加速する中国ニット業界

中国では、世界の衣料品生産の一大拠点として、ニット産業が発展してきました。その結果、今ではニット関連製品の大半が中国製と言われるほどになりました。さらに、経済成長とともに中国国内の衣料品需要も拡大しています。

ニット生産現場では手動式横編機がまだ多く使われていますが、人件費高騰や若年労働力の不足により、こうした労働集約型の生産では成り立たなくなってきました。そこで中国のニット業界は生き残りをかけて、生産ラインの自動化・高効率化を進めています。

新機種SSR®の受注が好調、高付加価値機にも高い評価

そうした中国のニーズに対応するSSRには多数の注文が寄せられており、本社生産工場ではフル稼働が続いています。SSRは、当社ならではの高効率性、高安定性、高耐久性を保ちながらも、コストダウンを実現した画期的な新製品として、中国のニットメーカーから高く評価されています。

一方で、他社との差別化を図ろうとしているメーカーからは、付加価値の高いモノづくりを可能にするインターシャ横編機MACH2SIG®も好評を得ています。

現地の横編機メーカーは集約の時代に

中国横編機メーカーは、2005年以降、ニット生産の伸長に伴って急増しました。しかしながら、安定的に大量生産できるメーカーは限られており、飽和状態から集約される傾向にあります。その中でも存続を保つメーカーは、技術力は劣るものの、中国政府の内資企業に対する優遇政策を活かした販売施策を展開しており、当社にとって看過できない競合先になりつつあります。

個別のニーズに素早く対応する

中国のニット業界は「多様化の時代」に突入しています。世界市場をターゲットとする大手ニットメーカーは短期間で質の高い製品づくりに、また内需向けに強みのあるニットメーカーは自社ブランド確立による差別化などに取り組んでいます。当社は、市場の変化に迅速に対応するため、現地法人による提案・販売活動を強化、内陸部の市場開拓や個展の開催、アフターフォローの充実など、さまざまな営業努力を続けています。



Eastern Europe, Russia

China



Asia



South America



世界各地への分散が進むニット生産

近年のニット生産は、中国一極集中から各地への分散が見られ、生産拠点のシフトが起きています。これらの地域では、コストパフォーマンスに優れたコンピュータ横編機への設備投資意欲が高まっており、当社にとって大きなビジネスチャンスが広がっています。

アジア 生産拠点の多極化が進む

アジアのニット産業では、欧米への販売ルートを持つ香港系ニットメーカーが重要な役割を果たしています。その生産を主に担っているのは中国本土の協力工場ですが、中国の件数費高騰などの影響により、一部の香港系企業はカンボジアなどの東南アジアに生産をシフトしています。

一方、チャイナプラスワンとして台頭し始めたバングラデシュやインドネシアにおいては、ニット生産量が増えていることから、コンピュータ横編機の需要増が見込まれます。そうした中で当社は、2009年にバングラデシュの首都ダッカにショールームをオープン、2011年にはインドネシアのバンドン市に事務所を開設する予定です。

中東 さらなる付加価値向上に取り組む

中東でのニット産業の中心地は、欧州向け衣料の生産が盛んなトルコです。同国のニット産業は成熟期に入っており、より高付加価値な製品づくりや、生産効率の向上が求められています。当社では販売代理店を通じて、ユーザーの課題に対するきめ細かな技術サポートに力を入れています。

東欧・ロシア ニット産業の成長期

東欧では、西欧の資本がルーマニアやポーランドなどに投資する形でニット製品の生産が始まりました。今後は、資本元の西欧諸国だけでなく、東欧の生産地でも営業活動を展開していきます。

ロシアではニット製品の需要が増加しており、設備投資の動きも見え始めました。当社は販売体制を整備し、来期の売上倍増を計画しています。

南米 ニット産業が堅調に拡大

南米ではブラジル、アルゼンチンなどで、国内向けのニット生産が拡大しています。特に、高い経済成長を続けるブラジルでは、ホールガメント®横編機の浸透が進んでおり、今後有望な市場であると考えています。現在、現地販売代理店スタッフの技術レベル向上に取り組んでいます。

海外拠点からの手紙



PROFILE

セズギン ビンギョル (Sezgin Bingol)
TETAS IC VE DIS TICARET A.S. (以下、「TETAS社」と略)
1992年入社。2008年、ゼネラルマネージャーに就任。



From TURKEY

第2回 From トルコ

アジア、欧州にまたがる要衝として、多くの歴史遺産が築き上げられてきた国、トルコ。1890年(明治23年)、オスマン帝国の軍艦・エルトゥールル号が和歌山県串本沖で座礁した際、地域住民が懸命に救助活動を行ったことがきっかけとなって友好の絆が育まれるなど、日本と深い関わりを持つ国でもあります。

トルコでは、繊維産業は基幹産業として位置付けられています。その技術力には定評があり、欧州、ロシア向けのニット生産拠点としての地位を確立。シマセイキにおいても、2003年度に横編機の国別販売で最大の相手国になるなど、主要な輸出先の一つです。

欧州の先端ファッションを支える トルコのニット産業

羊毛と綿花の産地であるトルコは、古くから繊維産業が盛んであり、新興国として発展を遂げる中で、ニット産業もこの国の経済成長を支えてきました。

トルコのニット産業の特徴は、パイヤーからの発注を受けるニットメーカーと、その協力会社であるニット編み立て専門業者や縫製工場が密接に連携していることです。産地全体が一つのニットメーカーのような役割を果たすことで、品質の高い製品を機動的に仕上げる体制が構築されています。2005年のクォータ(輸出割当枠)撤廃後、中国製ニット製品との競合などにより、一時トルコのニット生産市場は縮小しましたが、近年は、政府の政策的な後押しや中国での人件費高騰などを受けて、地理的アクセスの良さと高い





JAPAN

トルコでのシマセイキの歩み

- 1986年 全自動シームレス手袋編機を納入
- 1988年 TETAS社と代理店契約を締結
- 1990年 SESシリーズのロングベッド機が販売の主流となり、大量生産型の市場が形成される
- 2003年 同ロングベッド機の年間販売台数が過去最高を記録
- 2007年 市場ニーズの多様化、生産の効率化が進む中、SSG®シリーズのショートベッド機を市場に投入
- 2009年 販売代理店TETAS社 新社屋に移転、ショールームをオープン

技術力を強みとするトルコへ生産を回帰させる動きが見られ、欧州、ロシア向けの輸出が大きく伸びています。

欧州向けのニット製品は婦人物が大部分を占め、H&M（スウェーデン）やZARA（スペイン）といった、いわゆるファストファッション系ブランドの生産が中心です。一方、ロシア向けのニット製品は、婦人物に加え、紳士物も多く生産されています。トルコ最大の商業都市・イスタンブールのラーレリ地区には繊維製品を中心とした卸売問屋街があり、ロシアからも多数のバイヤーが買い付けに訪れています。

今後、トルコの経済・産業の成長は、若者世代をはじめとする購買欲旺盛な中間層によって、さらに牽引されていくものと期待されます。それに伴って海外向けだけでなく、国内のニット需要についても着実に高まっていくと考えられています。



ニットメーカーの設備需要が拡大

TETAS社は、シマセイキのトルコにおける販売代理店です。横編機のユーザーは、欧州向け輸出ニットメーカー、ニット編み立て専門業者、そしてロシア向けおよび国内向けに自社ブランドを製造・販売するニットメーカーの3つに大別され、9割近くがイスタンブールに集中しています。当社は、この中でも欧州向け輸出ニットメーカーとニット編み立て専門業者に重点を置いて販売活動を展開しています。

販売の主力機は、時代とともに変わってきています。トルコでは従来、編地を大量に生産し、後に裁断・縫製するという生産方法が中心でした。そのため、編み幅が2メートル以上あるSES®シリーズのロングベッド機が主に使われていました。しかし現在では、裁断が不要な成型編みで編まれた生地を縫製して完成させるという生産方法が主流になり、生産効率が高くコストパフォーマンスに優れたショートベッド機・NSSG®への設備更新が進んでいます。

このNSSGは、欧州向けニット製品の輸出が拡大する中で、多品種少量・短サイクル化や、中国ニットメーカーとの差別化を志向する技術力の高いユーザーから好評を得ています。



当社の今後の課題は、シマセイキからの支援を受けながら、技術サポートを強化することです。ユーザーに編機の性能をフル活用してもらい、生産性向上やニット製品の品質向上にもっと役立てていただけるよう、顧客サービスの充実に注力していきます。

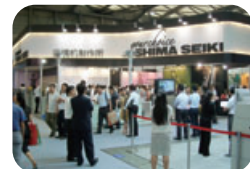


2011年3月期の取り組み

第50期

2010年

- 5月 1日 **組織** 管理本部を新設するとともに、国内営業体制を再編
 2日 **放映** TBS系列「がっちりマンデー!!」で当社紹介 
 18日 **販促** オーダーニットフェアをそごう千葉店で開催
 26日 **販促** オーダーニットフェアを西武池袋本店で開催
 6月22日 **展示会** ITMA ASIA + CITME 2010に出展【中国・上海】**①**
 7月15日 **受章** 社長の島正博がイタリア連帯の星勳章・コメンタール章を受章
 8月 6日 **販促** オーダーニットフェアを高島屋東京店で開催、9月、2011年3月にも同店で開催
 10日 **展示会** ブラジル最大の繊維機械展示会 FEBRATEXに出展 **②**
 31日 **放映** 毎日放送「ちんぷいぷい」で当社紹介（関西圏で放映）
 9月15日 **販促** オーダーニットフェアを宮崎山形屋で開催
 10月14日 **展示会** 東京ファッション産業機器展（FISMA TOKYO）に出展
 27日 **発表** コンピュータ横編機の新機種SSR[®]を発表 
 29日 **販促** オーダーニットフェアを高島屋大阪店で開催、2011年3月にも同店で開催
 11月17日 **放映** 朝日放送「NEWSゆう+」で当社紹介（関西圏で放映）
 20日 **放映** NHK総合「海外ネットワーク」で当社紹介
 12月 7日 **展示会** ジャパン・ベストニット・セレクション 3rd Editionに協賛・出展【東京】 **③**



①



②



③

2011年

- 1月15日 **C S R** 「はやぶさ」帰還カプセルを展示【和歌山】
 22日 **販促** オーダーニットフェアを高島屋横浜店で開催、3月にも同店で開催
 28日 **出荷** 積層式自動裁断機の新機種P-CAM[®]1620を初出荷
 2月 4日 **出荷** コンピュータ横編機、輸出販売10万台を達成 **④**
 13日 **展示会** ダッカ・インターナショナル・テキスタイル&ガメント展に出展【Bangladesh】
 18日 **展示会** 第45回大阪ミシンショー&ハンズフェスティバルに出展
 3月16日 **販促** オーダーニットフェアを阪神百貨店梅田本店で開催【大阪】 **⑤**



④



⑤

第51期（予定を含む）

- 6月14日 **展示会** 第15回上海国際紡織工業展（上海テックス）に出展
 9月22日 **展示会** 国際繊維機械見本市 ITMA 2011に出展【スペイン・バルセロナ】



「匠の技」が当社の高品質なモノづくりを支えています

当社の製品は、品質、機能、耐久性などにおいて、他社の追随を許さないレベルにあります。その高い完成度を保つ上で重要な役割を果たしているのが、人の手による「匠の技」です。当社では多くの工程を自動化し、最新の生産設備を導入していますが、機械では対応できない精緻な作業もあります。100分の1ミリレベルの凹凸調整などは手作業でしかできず、これを担っているのが、感覚を研ぎ澄ませた「匠」たちです。

例えば、転換レールと呼ばれる長尺部品は、あえて少しだけ上向きにたわませます。後で取り付けの部品の重さでレールがひずむため、完成時に水平になるように調整するのです。そのたわませ具合は極めて微細で、経験を積んだ匠たちが100分の1ミリの違いを感じ取りながら手作業で行っています。

こうした当社の匠の技は、TBS系列のテレビ番組で全国に紹介され、年末の特別番組では優秀賞を受賞しました。他にも重要な部品の大半は、職人による最終の仕上げ加工が施された上で、組み立てられます。当社製品の品質の高さは、このような職人技が生み出し、他社との差別化に結び付いているのです。



100分の1ミリの技



トロフィーを持つ受賞者たち



価格性能比に優れた新機種「SSR」が大好評

ニット製品に対する需要が世界的に拡大する中、中国をはじめとする新興国のニット生産地域では、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換が急速に進んでいます。この自動化ニーズとシェア拡大を狙った戦略機種として、当社は「SSR」を発表しました。

SSRには、予想を大きく上回る注文が寄せられ、本社生産工場ではかつてない増産体制に対応しています。同機が高く評価される理由は、圧倒的なコストパフォーマンスの高さにあります。SSRは、当社従来機と比べて価格を下げ一方で、品質や耐久性などは変わらない高いレベルを維持し、省スペースと省エネルギーも実現しています。

高品質を保ちながらコストダウンを図るため、設計に始まる全工程を見直し、徹底的な合理化に取り組みました。数千点にのぼる

部品を一つずつ素材から吟味し、部品の小型化や製造方法の改善などにより、最終組み立て工程のリードタイムを従来の6割程度に短縮しました。

当社の技術とノウハウを結集したSSRは、ユーザーから「生産性が大きく向上した」と好評を博しています。



新機種SSR



アジアへ向け初出荷

「はやぶさ」帰還カプセルを特別公開 1万5千人が来場

当社は「子どもたちをはじめ、多くの人に宇宙への関心を高めてもらいたい」という目的で、2011年1月15日から18日までの4日間、和歌山市内の複合商業施設・フォルテワジマにて、小惑星イトカワの微粒子を地球に持ち帰った探査機「はやぶさ」の帰還カプセルなどを展示し、延べ1万5千人の方が来場されました。

会場では宇宙から帰還した「インストゥルメントモジュール」と呼ばれるカプセル本体の一部や、搭載電子機器部、パラシュートなどの実物を公開。また、関連イベントとして、帰還カプセルの実物大レプリカの展示に加え、はやぶさのプロジェクトマネージャー・川口淳一郎氏の講演会や、スペースアートクリエイター・池下章裕氏のデジタルアート展、JAXA宇宙教育センターのスタッフと地元教師たちによる宇宙授業なども開催しました。

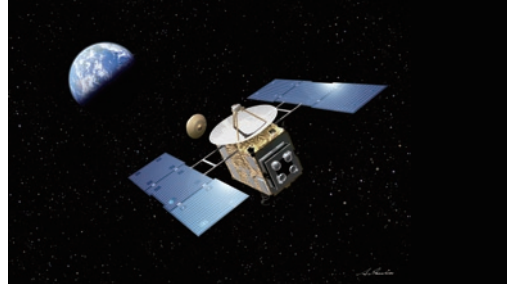
会場では連日、展示品を熱心に見入る来場者の姿が見られ、「宇宙を身近に感じることができた」、「地元で見ることができてうれしかった」、「日本の技術の素晴らしさを実感した」といった感想が寄せられました。



レプリカに触れて、帰還カプセルを体感

「誰にでも分かりやすく伝えたい」という思いから、JAXAの協力のもと帰還カプセルの実物大レプリカを製作。カプセルの重さを体感できるコーナーも設けました。

▼はやぶさの偉業を伝える展示品が来場者の注目を集めた



▲帰還するはやぶさのCGイメージ

©池下章裕

<当社と宇宙事業との関わり> ホールガーメント®が 「宇宙船内用日常服」に採用

当社は2006年から、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が実施する宇宙オープンラボの共同研究「近未来宇宙暮らしユニット」に参画し、産学協同で「宇宙船内の日常服」の開発を進めてきました。「無重力の環境下で体型が変化する」、「前傾姿勢になる」といった宇宙特有の課題に対応できる日常服として、縫い目がなくて動きやすく、着用時の圧迫感・不快感を軽減できる「ホールガーメント」が採用されたものです。

当社が提案したニットウェアは、2008年3月に土井隆雄飛行士が、2010年4月には山崎直子飛行士が、国際宇宙ステーション「きぼう」で着用しています。

このように当社は宇宙事業と深い関わり合いを持っていることもあり、今回の「はやぶさ」帰還カプセルの公開につながりました。

宇宙船内用日常服



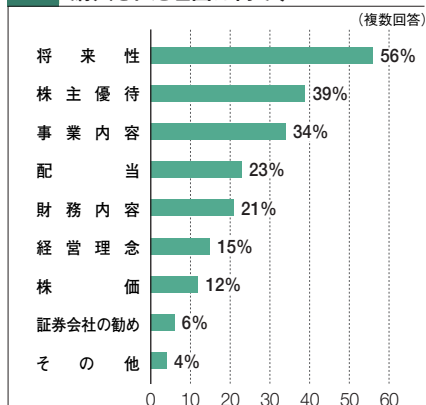
アンケート結果のご報告

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、定期的に株主アンケートを実施しています。昨年12月発行の第50期第2四半期「株主のみなさまへ」に同封しましたアンケートにおいては、約3,400名という多くの株主様からご回答をいただき、回答率は前回

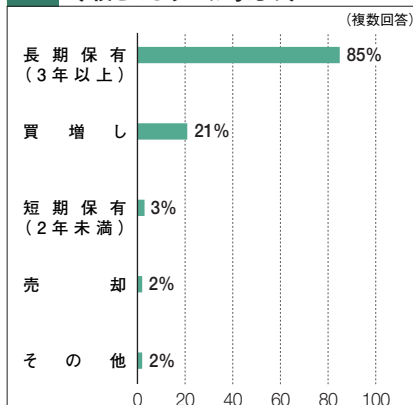
を上回る18.3%でした。

皆様から頂戴した貴重なご意見を真摯に受け止め、今後のIR活動ならびに事業活動に活かしてまいります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

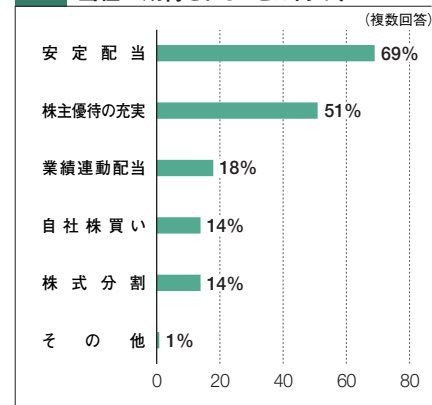
1 当社の株式を 購入された理由は何ですか？



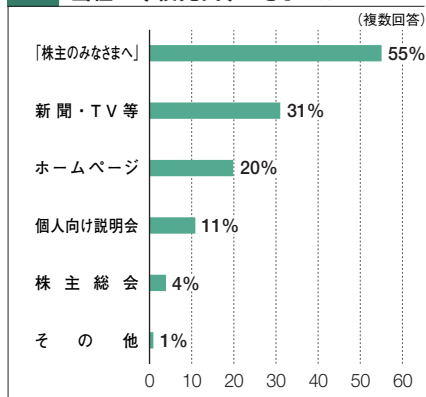
2 当社の株式について 今後どのようにお考えですか？



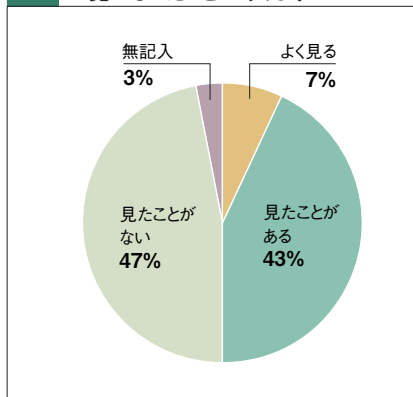
3 株主還元に関して 当社に期待されることは何ですか？



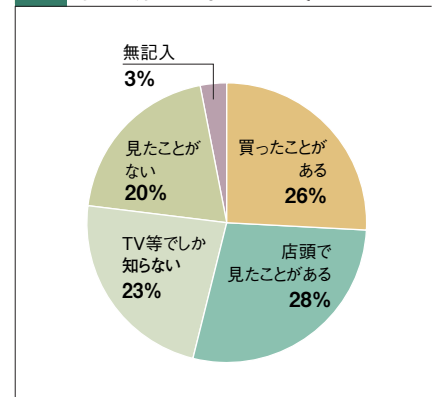
4 会社情報を提供する手段として 当社が今後充実すべきなのは？



5 ホームページのIR情報 ご覧になったことがありますか？



6 当社の編織で作られる ホールガーメント®について



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2011年3月31日現在	2010年3月31日現在
流動資産	75,246	68,859
現金及び預金	19,966	16,961
受取手形及び売掛金	33,814	33,655
その他	23,960	21,113
貸倒引当金	△2,494	△2,871
固定資産	38,703	41,202
有形固定資産	20,717	21,095
土地	10,999	10,992
その他	9,717	10,103
無形固定資産	5,553	6,897
のれん	5,420	6,763
その他	132	133
投資その他の資産	12,432	13,209
投資有価証券	7,149	7,481
その他	7,130	7,981
貸倒引当金	△1,846	△2,253
1 資産合計	113,950	110,062

POINT 1 資産合計

現金及び預金の増加により、前期末に比べ38億87百万円増加しました。

POINT 2 負債合計

買掛債務や借入金の増加により、前期末に比べ47億70百万円増加しました。

POINT 3 売上高

生産効率を高め高品質なモノづくりに貢献する製品の開発・販売に注力した結果、売上高は前期比16.0%増の427億81百万円となりました。

科 目	当 期	前 期
	2011年3月31日現在	2010年3月31日現在
流動負債	19,228	16,076
支払手形及び買掛金	7,046	5,804
短期借入金	5,693	1,839
1年内返済予定の長期借入金	—	1,000
1年内償還予定の新株予約権付社債	—	1,941
その他	6,487	5,491
固定負債	8,131	6,513
長期借入金	4,500	3,000
その他	3,631	3,513
2 負債合計	27,359	22,589
株主資本	98,417	98,601
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	68,234	68,415
自己株式	△6,400	△6,398
その他の包括利益累計額	△11,900	△11,133
その他有価証券評価差額金	△456	△1,061
土地再評価差額金	△7,433	△7,433
為替換算調整勘定	△4,011	△2,639
新株予約権	62	—
少数株主持分	11	5
純資産合計	86,590	87,473
負債純資産合計	113,950	110,062

POINT 4 営業利益

コストダウン活動の徹底や生産台数の増加に伴って売上総利益率が向上したことなどにより、営業利益は59億7百万円となり、前期に比べ大幅に増加しました。

POINT 5 経常利益

円高の進行により為替差損を35億52百万円計上しましたが、経常利益は前期比26億89百万円増の28億38百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで
3 売上高	42,781	36,874
売上原価	23,586	22,735
売上総利益	19,194	14,139
販売費及び一般管理費	13,286	13,487
4 営業利益	5,907	651
営業外収益	721	933
営業外費用	3,790	1,436
5 経常利益	2,838	148
特別利益	534	738
特別損失	2,280	1,928
税金等調整前当期純利益・損失(△)	1,092	△1,041
法人税、住民税及び事業税	591	454
法人税等調整額	△269	388
少数株主利益	0	0
6 当期純利益・損失(△)	769	△1,885

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで
7 営業活動による キャッシュ・フロー	3,503	6,746
8 投資活動による キャッシュ・フロー	△1,834	△2,759
9 財務活動による キャッシュ・フロー	1,297	△6,681
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1,206	△298
現金及び現金同等物の 増減額	1,760	△2,992
現金及び現金同等物の 期首残高	16,317	19,310
現金及び現金同等物の 期末残高	18,077	16,317

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				新株 予約 権	少数 株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他 の包括利益 累計額合計			
2010年3月31日残高	14,859	21,724	68,415	△6,398	98,601	△1,061	△7,433	△2,639	△11,133	—	5	87,473
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△950		△950							△950
当期純利益			769		769							769
自己株式の取得				△2	△2							△2
自己株式の処分			△0	0	0							0
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)						604		△1,371	△766	62	5	△698
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△181	△2	△183	604	—	△1,371	△766	62	5	△882
2011年3月31日残高	14,859	21,724	68,234	△6,400	98,417	△456	△7,433	△4,011	△11,900	62	11	86,590

POINT 6 当期純利益・損失(△)

投資有価証券評価損などの特別損失を計上しましたが、当期純利益は前期比26億55百万円増の7億69百万円となりました。

POINT 7 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加やたな卸資産の増加などはありませんでしたが、仕入債務の増加などにより35億3百万円の資金の増加となりました。

POINT 8 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得や投資有価証券の取得などにより、18億34百万円の資金の減少となりました。

POINT 9 財務活動によるキャッシュ・フロー

社債の償還や配当金の支払いなどの資金支出はありますが、短期及び長期借入金の増加により12億97百万円の資金の増加となりました。

(注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

会社概要

会社概要 (2011年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員数 1,191名 (連結1,730名)
 事業内容 コンピュータ横編機
 コンピュータデザインシステム
 アパレルCAD/CAMシステム
 手袋編機、靴下編機



本社・本社工場

事業所 (2011年6月29日現在)

支店、テクニカルサービスセンター (TSC)

東京支店	(東京都中央区)
東京 TSC 甲府	(山梨県中巨摩郡昭和町)
東京 TSC 太田	(群馬県太田市)
東日本支店	(新潟県五泉市)
東日本 TSC 山形	(山形県山形市)
東日本 TSC 福島	(福島県伊達市)
西日本支店	(大阪市北区)
西日本 TSC 名古屋	(名古屋市中区)
西日本 TSC 泉州	(大阪府泉大津市)
西日本 TSC 四国	(香川県東かがわ市)

海外支店 台北支店 (台北市)
 工場 本社工場 (和歌山県和歌山市)

役員 (2011年6月29日現在)

地位	氏名	担当および重要な兼職
代表取締役社長	島 正博	営業本部長
専務取締役	田中 雅夫	内部監査室、物流部担当兼 管理本部長
専務取締役	島 三博	生産技術部、トータルデザイン センター担当兼生産本部長
常務取締役	和田 隆	システム生産技術部担当兼 製造技術部長
常務取締役	有北 礼治	開発本部長
取締役	梅田 郁人	島精機(香港)有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務人事部長
取締役	中嶋 利夫	国内営業部、経営企画部担当兼 海外営業部長
取締役	南木 隆	管理部担当兼経理財務部長
取締役	西谷 泰和	資材部長
常勤監査役	片桐 正二郎	
常勤監査役	植田 光紀	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

連結子会社 (2011年3月31日現在)

株式会社シマファインプレス	(和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社	(和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密	(和歌山県海南市)
東洋紡糸工業株式会社	(大阪府泉北郡忠岡町)
株式会社ツカダシマセイキ	(群馬県太田市)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	(イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC.	(アメリカ)
島精機(香港)有限公司 (SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.	(イタリア)
島精榮(上海)貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.	(スペイン)
東莞島精貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.	(タイ)

株式概要

株式の状況 (2011年3月31日現在)

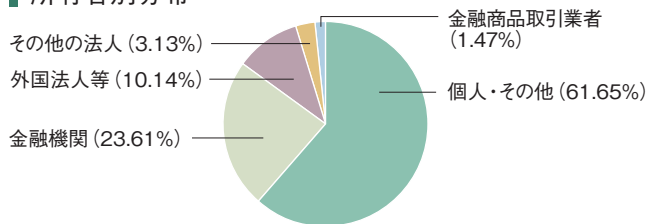
- ① 発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③ 株主数…………… 18,131名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

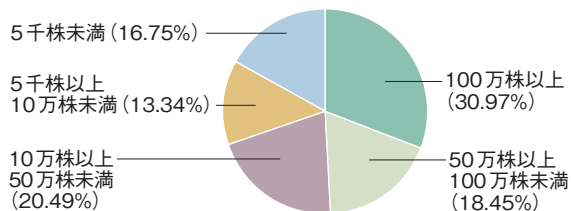
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
島 正 博	3,670	10.61
島 三 博	1,825	5.28
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,451	4.20
株式会社紀陽銀行	1,310	3.79
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,056	3.06
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.55
和島興産株式会社	850	2.46
シマセイキ社員持株会	766	2.22
株式会社池田泉州銀行	700	2.02
後藤ひろみ	697	2.02

(注) 当社は、自己株式2,024千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

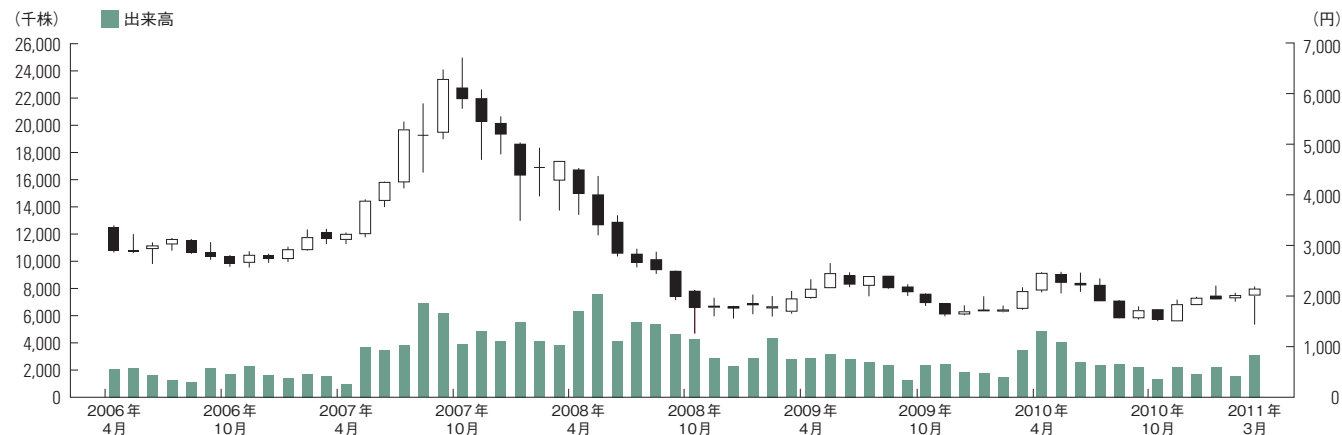
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	基準日	3月31日	
	開催日	毎年6月	
配当金受領株主確定日	期末配当金	3月31日	
	中間配当金	9月30日	
公告方法	電子公告		
	下記当社ホームページに掲載 (http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載		

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にでもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地
TEL (073) 471-0511 (代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

MACH2, NSSG, P-CAM, SDS, SES,
SIG, SSG, SSRおよびホールゲームは
株式会社島精機製作所の登録商標です。

株主優待のご紹介

当社では、毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しています。

3月期の株主優待

3月期のご優待では每期趣向を凝らし、オリジナルのホールゲーム[®](無縫製ニット)製品や地元和歌山の特産品などを特別企画品としてお贈りしています。

2011年3月期につきましても、ご所有の株数によりホールゲーム製品や当社直営飲食施設での取扱商品などのお届けを予定しています。なお、内容の詳細につきましては、別途ご案内させていただきます。

<これまでの3月期の株主優待品例>

※ご所有の株数によりお届けしました品物は異なります。

2009
ニット製品



イタリアワインセット



2010
ニット製品



黒あわび茸詰め合わせ



9月期の株主優待



オーベルジュサウステラス

和歌山県西牟婁郡白浜町2998-10
TEL (0739) 42-4555

<http://www.southterrace.co.jp/>

9月期は、例年、南紀白浜のホテル「オーベルジュサウステラス」の優待割引券を進呈しています。

イタリアンとフレンチを融合した料理と贅沢感あふれる広々としたお部屋、万葉集にも登場する白浜の名湯でくつろぎのひとつときをお楽しみください。